

ドイツ語（初級 A） 第 12 回 命令文、分離動詞と非分離動詞

範囲：教科書第 8 課 A, B (S.32-34)

《今回の基本例文》

39. Bleib zu Haus! (CD42-1)

(お前は) 家にいろ！

[du に対する命令形 (命令法)]

40. Antwortet auf meine Frage! (CD42-3)

(お前たちは) 私の問いに答えろ！

[ihr に対する命令形 (命令法)]

41. Fahren Sie mit der U-Bahn! (CD42-2)

(あなたは／あなたがたは) 地下鉄で行ってください。

[Sie に対する命令形 (接続法)]

42. Sei vorsichtig! (CD43-1)

(お前は) 気をつけろ！

[sein の命令形 (命令法)]

43. Lies laut! (CD44-1)

(お前は) 大きな声で読め！

[幹母音が e → i/ie に変音する動詞の命令形 (命令法)]

44. Der Zug fährt pünktlich ab. (CD45-2)

その列車は時間通りに出発する。

[分離動詞]

45. Kannst du mich morgen wieder anrufen? (CD47-4)

明日もう一度、(君は) 私に電話できるかな？

[分離動詞＋話法の助動詞]

I 命令文

A. 命令文 (S. 32)

1 命令形 (基本公式)

du に対する命令形 : ○○! /○○e!

ihr に対する命令形 : ○○t!

Sie に対する命令形 : ○○en Sie!

* ○○は語幹、○○en は不定詞。不定詞が-n で終わる tun 型の場合、不定詞をそのまま代入。

◇ 英語とは異なり、ドイツ語の命令形には、du (2 人称親称単数) に対するもの、ihr (2 人称親称複数) に対するもの、Sie (2 人称敬称単数、複数) に対するものの三種類がある。

◇ 普段 du や ihr を用いて話している相手に対しては du や ihr に対する命令形（「～しろ！」、「～して！」）を、Sie を用いて話している相手には Sie に対する命令形を使用する（「～してください」）。

◇ 命令形のつくり方については、

- ・基本公式（この[1]で扱っているもの）
- ・sein ([2])
- ・単数 2・3 人称で幹母音が e → i/ie に変音する動詞 ([3])

の 3 パターンを覚えればよい。

◇ du に対する命令形の基本公式は、

- ・語幹のみ、もしくは語幹+e（現在人称変化の 1 人称単数と同じ）、最後は感嘆符。
- ・ただし、arbeiten 型（教科書 S.9）や、-ern, -eln, igen など終わる動詞（教科書 S.10 など）については、必ず語幹+e になる。

Sag! / Sage! (← sagen)

言え！（一人に対して）

Wasch! / Wasche! (← waschen)

洗え！（一人に対して）

Antworte! (← antworten)

答えよ！（一人に対して）

Öffne! (← öffnen)

開け！（一人に対して）

Entschuldige! (← entschuldigen)

許せ！／ごめんなさい。（一人に対して）

* entschuldigen は他動詞「(4 格)を許す」なので、命令文は「許せ」の意味になり、転じて「ごめんなさい (I'm sorry!)」として使われる。名詞形の Entschuldigung! も「ごめんなさい」の意味になり、こちらの方が穏やかな言い方。

◇ ihr に対する命令形の基本公式は、

- ・語幹+t（現在人称変化の 2 人称複数と同じ）、最後は感嘆符。
- ・ただし、現在人称変化の du や er に語調を整える e が現れる動詞（arbeiten 型）については、必ず語幹+et になる。

Sagt! (← sagen)

言え！（複数人に対して）

Wascht! (← waschen)

洗え！（複数人に対して）

◇ Sie に対する命令形の基本公式は、語幹+en（不定詞と同じ）のあとに主語 Sie を添える。

Sagen Sie! (← sagen)

言ってください。（一人、複数人のいずれでも）

Waschen Sie! (← waschen)

洗ってください。（一人、複数人のいずれでも）

◇ Sie に対する命令形は決定疑問文と同じかたちになるが、疑問符ではなく**感嘆符**を用い、発音は文末を上げず下げる。

Sprechen Sie Deutsch?（決定疑問文）

あなたはドイツ語を話しますか？

* イントネーションは↗

Sprechen Sie Deutsch!（Sie に対する命令形）

ドイツ語を話してください。

* イントネーションは↘

* 上記の三つのうち、厳密には、du に対する命令形と ihr に対する命令形は「命令法」（直説法、命令法、接続法の三つの「法」のうちの一つ）であるが、Sie に対するものは「接続法」（授業第 11 回で少し説明したように、英語の仮定法に相当するもの）である。これらをまとめて扱うため、便宜的に「命令形」や「命令文」という言葉を用いている。

** du や ihr に対する命令形では主語が要らず、Sie に対する命令形だけ主語が必要になる理由も、前者が命令法、後者が接続法だからである。一般に、命令法では主語を必要としない（英語などと同じ）。

◇ 英語の *please* に相当する、依頼を表す表現としては、**bitte** を覚える。

* 何度か出てきた動詞 *bitten* (vt. 〈4 格〉に頼む、願う) の 1 人称単数、*ich bitte* の略。

Sprechen Sie Deutsch bitte!

ドイツ語を話してください。(Please speak German.)

2 sein, werden の命令形

sein の命令形は、

- ・ du に対して : Sei!
- ・ ihr に対して : Seid!
- ・ Sie に対して : Seien Sie!

◇ sein の命令形は、すべて„sei“が現れる不規則なかたちをとる。

- ・ du に対しては **Sei**
- ・ ihr に対しては **Seid**（現在人称変化の 2 人称複数と同じ）
- ・ Sie に対しては **Seien Sie...**

Sei ruhig!

静かにしろ！（一人に対して）

Seid ruhig!

静かにしろ！（複数人に対して）

* いずれも "Be quiet!" の意味。

Seien Sie ruhig!

静かにしてください。（一人、複数人のいずれでも）

◇ werden の命令形は、語幹が -t や -d で終わる規則動詞（arbeiten 型）と同じと考えて差し支えない。つまり、du に対しては **Werde ...!**、ihr に対しては **Werdet ...!**、Sie に対しては **Werden Sie ...!** となる。

3 単数 2・3 人称で幹母音が e → i/ie に変音する動詞の命令形 (S. 33)

e → i/ie 型の動詞の命令形

: du に対する命令形 = 変音した (e → i/ie) 語幹!

- ◇ 教科書第 3 章で学んだ、単数 2・3 人称で幹母音が変音する動詞のうち、
- ・ a → ä 型：基本公式と同じで変音はしない。
 - ・ e → i/ie 型：du に対する命令形は変音し、なおかつ語尾に -e はつけない。ihr および Sie に対する命令形は基本公式と同じ。
- ◇ 例えば、sprechen の現在人称変化は ich spreche, du sprichst, er spricht...であるため、
- ・ du に対する命令形にはこの e → i が反映され、Sprich!
 - ・ ihr に対する命令形は公式通り、Sprecht!
 - ・ Sie に対する命令形も公式通り、Sprechen Sie!
- ◇ e → i/ie 型の du に対する命令形の代表例は以下の通りなので、覚えておくといよい（括弧内に ihr に対する命令形／Sie に対する命令形も補足）。
- ・ essen : **Iss!** (Esst! / Essen Sie!)
 - ・ geben : **Gib!** (Gebt! / Geben Sie!)
 - ・ helfen : **Hilf!** (Helft! / Helfen Sie!)
 - ・ lesen : **Lies!** (Lest! / Lesen Sie!)
 - ・ nehmen : **Nimm!** (Nehmt! / Nehmen Sie!)
 - ・ sehen : **Sieh!** (Seht! / Sehen Sie!)
 - ・ sprechen : **Sprich!** (Sprecht! / Sprechen Sie!)

■ 命令形のまとめ

不定詞	対 du	対 ihr	対 Sie	備考
lernen	Lern! / Lerne!	Lernt!	Lernen Sie!	基本公式
arbeiten	Arbeite!	Arbeitet!	Arbeiten Sie!	現在人称変化に e が現れる動詞
ändern	Ändere!	Ändert!	Ändern Sie!	-ern, -eln で終わる動詞
helfen	Hilf!	Helft!	Helfen Sie!	幹母音が e → i に変音する動詞
sehen	Sieh!	Seht!	Sehen Sie!	幹母音が e → ie に変音する動詞
sein	Sei!	Seid!	Seien Sie!	sein（完全不規則）
werden	Werde!	Werdet!	Werden Sie!	werden（実は基本公式に従う）

II 分離動詞と非分離動詞

B. 分離動詞 (S. 33)

■ 複合動詞の基本構造（前綴りと基礎動詞）

前綴り + 基礎動詞 = 複合動詞

- ・ 文の定動詞にした際、前綴りが分離：分離動詞
- ・ 文の定動詞にした際、前綴りが分離しない：非分離動詞

◇ ドイツ語には、**前綴り + 基礎動詞**という構成の**複合動詞**が存在する。例えば、

- ・ verstehen = ver + stehen (⇒教科書 S. 30)

複合動詞 前綴り 基礎動詞

* 複合動詞の発音は基礎動詞に準拠する。verstehen の場合、st は語中ではなく語頭という扱いとなり、[ʃt]の音となる。

◇ 複合動詞には次の 2 種類があり、特に分離動詞はドイツ語における特徴的な要素といえる。

* 英語の stand up や give up のような句動詞に相当するものが分離動詞と考えられる。

・ 分離動詞：

- (文の) 定動詞として使われる際、前綴りが基礎動詞から分離して文末に移動する。
- 前綴りにアクセントあり。

◇ aufstehen = auf + stehen vi. 起き上がる

分離動詞 前綴り 基礎動詞

* auf の部分にアクセントあり。

・ 非分離動詞：

- 定動詞として使われる際、前綴りが基礎動詞から分離しない（一般動詞と同じ）。
- 前綴りにアクセントなし。

◇ verstehen = ver + stehen vt. 〈4 格〉を理解する

非分離動詞 前綴り 基礎動詞

* stehen の部分にアクセントあり。

■ 分離動詞

◇ 分離動詞は、不定詞としては前綴りと基礎動詞が分離しないかたちで存在するので、辞書にもそう載っている。辞書などでは前綴りのあとに便宜的に「|」をつける。もちろん、実際の文章では用いない。

- ・ auf|stehen vi. 起き上がる (stand up)
- ・ an|fangen vi. はじまる、vt. 〈4 格〉をはじめる (begin)
- ・ mit|bringen vt. 〈4 格〉を持ってくる
- ・ aus|steigen vi. (乗物から) 降りる
- ・ um|steigen vi. (乗物を) 乗り換える
- ・ teil|nehmen vi. 参加する (take part in)

* an eʃ. teil|nehmen (〈3 格〉に参加する) の熟語として主に使用。

- ◇ 分離動詞の前綴りは前置詞、名詞、形容詞、副詞、動詞と多様で、ほぼ元の語の意味を保存している。
- * ただし、前綴りの元の意味+基礎動詞を合算するだけでは意味を類推できない場合も多いので、分離動詞が出て来たら必ず辞書を引くこと。
 - ・前置詞：auf|stehen (vi. 起き上がる) の auf-など
 - ・名詞：teil|nehmen (vi. 参加する) の teil-など (Teil m. 部分)
 - ・形容詞：fern|sehen (vi. テレビを見る) の fern-など (fern adj. 遠い)
 - ・副詞：zusammen|fassen (vt. 〈4 格〉を要約する) の zusammen-など (zusammen adv. 一緒に)
 - ・動詞：kennen|lernen (vt. 〈4 格〉と知り合う) の kennen-など
- ◇ 分離動詞の前綴りは、動詞以外の名詞や形容詞に使われた場合（分離動詞の派生語など）でもアクセントを持つ。
- ・Anzug m. 背広 (← an|ziehen vt. 〈4 格〉を身に着ける、〈4 格〉に身につけさせる)
 - ・vorsichtig adj. 用心深い
 - * いずれも前置詞を由来とする分離動詞の前綴り an-および vor-がついている。

1 分離動詞の語順

基礎動詞 → 第 2 位（定動詞の位置）
前綴り → 文末

- ◇ 分離動詞が主文の定動詞として用いられるときは、前綴りは基礎動詞（の人称変化形）から分離して文末に置かれる。図示すれば、

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	基礎動詞（現在人称変化）	…	前綴り

* 分離動詞の前綴りを文末に置く語順も、「定動詞と関係の強い要素ほど文末に移動させる」の一種である。念のため復習すると、これまで登場した「定動詞と関係の強い要素（→文末）」は、ほかに下記を扱った。

- ・4 格目的語 (⇒教科書 S. 14)
- ・移動の目的地 (⇒教科書 S. 15 など)
- ・話法の助動詞を用いた文における不定詞 (⇒教科書第 7 課)

~~~~~  
Du bringst eine Flasche Wein mit.

君はワインを 1 ビン持ってくる。

\* 分離動詞 mit|bringen (vt. 〈4 格〉を持ってくる) を用いて「君はワインを 1 ビン持ってくる」と言いたいときは、まず基礎動詞 bringen を定動詞第 2 位の位置に、前綴り mit を文末に置く。次に、bringen を主語（君＝du）に合わせて bringt に現在人称変化させる。目的語など、それ以外の要素は bringt と mit のあいだに入れればよい。

\* \* eine Flasche は助数詞。 (⇒授業第 11 回配付資料 S. 5)

~~~~~  
Bringst du eine Flasche Wein mit?

君はワインを 1 ビン持ってくるか？

* 決定疑問文の場合。

~~~~~  
Bring eine Flasche Wein mit!

（君は）ワインを 1 ビン持ってこい！

\* 命令文の場合。  
~~~~~

2 話法の助動詞＋分離動詞の語順 (S. 34)

◇ 分離動詞において前綴りと基礎動詞が分離するのは、文の定動詞にした場合のみであり、前述のように、不定詞としては前綴りと基礎動詞が分離しないかたちで存在する。

◇ このため、話法の助動詞を用いた文において分離動詞を不定詞として用いるときは、分離動詞は前綴りと分離しないかたちで書かれる。

Er muss sofort mit der Arbeit anfangen.

彼はすぐ仕事を始めなければならない。

* 分離動詞 anfangen (mit et³. anfangen という熟語で「(3 格) に着手する」の意味になる) を用いて「彼はすぐ仕事を始めなければならない」と言いたいときは、まず「～なければならない」を意味する話法の助動詞 müssen を定動詞とし、分離動詞 anfangen を不定詞のまま文末に置く。もちろん、müssen を主語 (彼) に合わせて muss に現在人称変化させる。mit+3 格など、それ以外の要素は muss と anfangen のあいだに入れればよい。

3 非分離動詞

be-, emp-, ent-, er-, ge-, ver-, zer-などの前綴りがついた動詞：

普通の動詞と同じ扱い。

・前綴りと基礎動詞は分離しない。

・前綴りではなく基礎動詞にアクセント。

(・ただし、過去分詞には特有の規則がある。)

◇ 非分離動詞に関しては、前綴りは基礎動詞と分離せず、アクセントも持たない。つまり、普通の動詞と基本的に同じ扱いをする。

* ただし、のちに学ぶ過去分詞については、普通の動詞と異なったつくり方をする。 (⇒教科書 S. 44)

◇ 非分離動詞の前綴りには、非分離動詞に特有の前綴りと、分離動詞と非分離動詞に共通して用いられる前綴りの 2 種類が存在する。

・**非分離動詞特有の前綴り**は、be-, emp-, ent-, er-, ge-, miss-, ver-, zer-の 8 種類である。これらを覚えておくと、どれが非分離動詞なのかすぐわかる。

* 分離動詞の前綴りが前置詞、名詞、形容詞、副詞、動詞であるのと異なって、非分離動詞の前綴りは独立した単語ではなく、分解しても意味を類推するのは困難である。

** 一応、be-は自動詞の他動詞化、emp-や ent-は除去、miss-は失敗、ver-は媒介や失敗、zer-は破壊などの機能や意味がある。辞書にはこれら前綴り自体の項目があり、その種の情報が記載されている。ただし、例外が極めて多い。例えば、entstehen (vi. 生じる) や verstehen (vt. 〈4 格〉を理解する) は、上記の意味からは説明できない。

*** よって、非分離動詞が登場したときは、前綴りと基礎動詞の足し算で意味を推測しようとせず、すぐ辞書を引くこと。

・**分離動詞と非分離動詞に共通の前綴り**は、durch-, hinter-, über-, um-, unter-, wider-, wieder など、ほぼ前置詞か一部の副詞に由来するものである。

* 共通の前綴りがついている動詞のなかには、まったく同じ複合動詞でも、分離動詞として使うときと非分離動詞として使うときとで意味が異なるものがある。一般に、分離動詞は具体的意味、非分離動詞は抽象的意味という傾向がある

über|setzen vi. 対岸に渡る、vt. 〈4 格〉を対岸に渡す

übersetzen vt. 〈4 格〉を翻訳する

Das Zimmer gehört diesem Ausländer.

その部屋はこの外国人に属している（この外国人のものである）。

* 何度も登場した「3 格目的語をとる動詞」gehören (vi. 〈3 格〉に属している) は、前綴り ge-を持つ非分離動詞だった。

** Ausländer には分離動詞の前綴り aus-がついている。よって、アクセントは Aus-の部分にあり。

Nach dem Mittagessen besuchen wir unseren Onkel.

昼食後、私たちはおじを訪問する。

* besuchen (vt. 〈4 格〉を訪問する、英 visit) も、前綴り be-を持つ非分離動詞。

** Mittagessen (n. 昼食) は Mittag (m. 正午) と Essen (n. 食事) の複合語。

◇ 非分離動詞の前綴りは、動詞以外の名詞や形容詞に使われた場合（非分離動詞の派生語など）でもアクセントを持たない。

- Verkehr m. 交際、交通 (← verkehren vi. 交際する、運行する)
- bequem adj. 快適な

* それぞれ非分離動詞の前綴りである ver-および be-がついている。

** 厳密に言えば、bequem も bequemen という非分離動詞の派生語だが、これは現在ではあまり使用しない。

■ 練習問題の補足

Übung 3 (S. 34)

5. an et³. teil|nehmen は分離動詞を用いた熟語で、「〈3 格〉に参加する (=take part in)」の意味。

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>